

地域密着型サービス事業者 自己評価表

認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームカルミア	評価実施年月日	平成20年9月24日
評価実施構成員氏名	さくらユニット 施設長・管理者 坂本静治 介護支援専門員 上村喜美子 計画作成者 羽川良枝 介護主任 黒田洋美		
記録者氏名	坂本静治	記録年月日	平成20年10月27日

北海道

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の方との交流を支え楽しみや喜びを共有できる理念をつくりあげている。地域の方による多忙時によるボランティアの参加など。</p>	
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念をユニット別に掲示し、朝の申し送りの際に理念を皆で復唱し、又、ミーティングや勉強会でも話し合いをし共有している。</p>	
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りに、理念を掲載し、家族等に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>町内会に加入し、町内活動にも参加協力している。</p>	
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会には加入しているが、できる限り、行事や地域活動への参加はしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	専門部会で情報の交換を行ったり勉強会にも参加している。高齢者の状態にあった施設の空き状況等も確認している。		地域行事にもできる範囲で参加し入居者共々交流している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質と向上が目的であることを理解し、必要に応じ運営者や職員と話し合いながら改善に取り組んでいる。(職員一覧を掲示)		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況報告及び事例を提供し検討して頂きアドバイス等についてはケアプラン内容や職員ケア指導時の参考としている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度の入居者状況の報告や入居者の身体状況・認知症の進行に変化が見られる場合は家族に相談し、介護度の区分変更等その方が優位になるよう市町村と連絡しあっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームでは、該当になる利用者もいないので実施していない。	○	学ぶ機会があれば参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	道主催の虐待防止法に関する研修を受講し、職員にも虐待防止の勉強会を開き周知している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、入居前に契約書並び重要事項説明書を渡し、詳細を確認していただき不明な事項を契約時に伺い同意していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>食後の時間等に、都度、話す機会を設け聴取し相談にのり、職員と話し合い早期の改善に取り組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>受診結果の報告・体調変化時の報告・利用者からの訴えのあった時等、随時電話や来所時報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所時やプラン提供説明時等、家族から意見を受け止める機会を設けており、改善の必要なものは随時対応している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年間必要時個人面談し意見を聞く機会を設けており必要なものは対応している。又、各ユニット毎にミーティングを実施して施設長・管理者も出席している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の定期受診対応により、事前にスタッフが不足する時間帯にはパート職員を勤務に入れている。急な病院受診や職員の欠員時は施設長や管理者がケア業務に入っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者のダメージを防ぐ為に、緊急やむおでない時以外は控えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会や講習会等の案内を回覧したり、専門誌の回覧を実施している。又、施設長が講師となり事例検討研修を実施した。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区の協議会に加入し年間研修スケジュールを計画し定期的に運営・計画者・管理者・スタッフ個々の研修会を実施し悩みや使命感・価値観を共有しサービスと質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>シフトにはスタッフの勤務希望を取り入れ、又年2回の個人面談を行い日々の思いを聴取し運営者の考えを押し付けないようにストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は勤務状況や個人の技量や力量を日々の会話や行動より把握し向上心をもって働けるよう定期昇給などを行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人からの困りごとや不安の訴えのあるときは、訴えを聞きながら本人の思いと向き合い、スタッフなどが本人に受け入れられるよう努力し信頼関係を得るよう配慮した対応もしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に訪れたとき、家族の気持ちを受け止め訴えのあるものに対して、できる対応や次のステップの切り替えなどについて相談しながら関係を築く努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容によって緊急性を要するときは、他施設に電話し空き状況を確認したり市町村に連絡したりして対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定本人に雰囲気や環境に馴染んでもらうために幾度かホームに来ていただき他入居者と食事をしたりお話をしたりして入居時の環境変化ダメージを軽減するよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事作りや昔からの慣わし等を場面で引き出すよう心がけわかっていても知らない振りをしたり利用者に教えてもらったりして共に共有できる話題を提供して楽しく支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の生活の様子や思いなどを家族に伝え情報の共有を図り一緒に支えていく関係作りを築いている。誕生会や行事等に招待し喜怒哀楽を共有している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の思いや状況を見極め家族との外出や外泊で一緒に過ごす事を進めたり行事等への参加を呼びかけてる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの本人の好む面会者においては定期的な面会をお願いしたり本人の思い出深い場所などは記憶の回想の為、家族やスタッフがその場所を訪れたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の利用者の関係を観察し食事のテーブルの座席の配置等は、気のあった利用者同士を近くに座らせ、ゆったりと自分たちのペースで食事ができ互いの食器の下善や茶碗拭きなどを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後であっても、相手の状況が変化する場合もあると思われる。必要に応じ退所後も連絡をとりながら、いつでも相談してくださいと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で声掛けをし把握に努めている。又、意思の疎通が困難な利用者は日々の行動・表情などから洞察したり家族や関係者から情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から本人の自慢できる内容のものを引き出しながら過去の生活背景を調査しスタッフと共有しながらケアに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活のリズム(食事・排泄・睡眠時間・体調変化等)をアセスメントシートに記入し把握をしている。生活・心理面の視点やできる事・できないことの見極めをし、本人の全体の姿の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人の思いや要望を聞き又、伝えられない利用者は日々の生活行動・表情・動作等から本人の視点に立って課題を見つけ出しスタッフ全員で話し合い介護計画に生かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了する前に、職員は情報の確認をし、ご本人の要望を取り入れ見直しを行っている。又状態の変化と共に見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のアセスメントの記入及び気づきや特徴がある時には記録をしている。又、必要に応じ(bpsd)が特に強く現れたときなどは、別に24時間一ヶ月まとめて見れる様式を活用し記録を取っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは多機能型ではないが、利用者の残存能力が遺憾なく発揮できるような支援を行っていききたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要時、ボランティアの方に来て頂き、入居者との係わりを持っていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当該地区市町村において二ヶ月1度のケアマネージャー部会に参加し情報を共有し地域の利用者の支援に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として地域包括支援センター職員になっていただいたことで各種情報や支援に関することで相談に応じてもらうなどの協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況や家族の希望要望を徹収し本人の為には現在どんな病院でどんな治療が必要かを把握し家族に助言し本人の症状に合わせた医療機関に支援して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ一人一人が利用者の言葉かけ・対応を注意している。個人の記録(アセスメントシート)は記入した後は、所定の場所保管するようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて、声掛けをし意思表示が困難な方は動作・表情から読み取り本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの・食べたいもの・する・しないこと等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが、一人一人の体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重し支援を行っている。希望により個別で買い物や散歩なども行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に本人の意向や家族の希望で決めている。職員は見守りや支援が必要なときは手伝いしているも、自己決定がしにくい利用者には一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援を心がけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューはなかなか決定できないが、調理・盛り付け・配膳片付けなどは利用者と一緒にいき、利用者と職員が同じテーブルで楽しく食事できる雰囲気づくりをしている。又、畑から利用者と一緒に野菜を採ってきて献立に利用している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好を把握し好みに合った飲み物や食事を提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンを把握して、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援している。日中は下着に尿取パットのみ使用している。夜間紙パンツにパットを使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的2～3日に一回入浴時間も決めているが、利用者のその日の体調や入浴希望により時間や日にちに関係なく気持ちよく入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調や表情・希望等を考慮しゆっくり休息とれるよう支援している。なかなか寝付けない利用者には添い寝をしたり暖かい飲み物を飲みながらお話をしたりなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者がそれぞれに力を発揮してもらえるようお願いできそうな役割を頼み、してくださった方には感謝の言葉を伝え、又、一人一人に合った計算問題やことわざ問題を出したり、外出やドライブなどの楽しみ事を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を持っている方もいて、受診料・薬代等自分で支払いしている。普段自分で支払いしない方でも家族の同意を得て小額のお金を持ちドライブや買い物へ行った時などは、自分で支払いできるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気持ちを推察し誘って、季節を肌で感じて頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の行きたいところを把握することは難しいが、春はさくら・秋には紅葉等又、年2～3回の外食を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば自由に電話を使用できる。かける事ができないときはスタッフが電話の取り次ぎをしている。コードレスを使用し居室で話す時もある。本人にあての手紙は直接本人に渡している。	○	年賀状が書ける支援をし、家族や知人との係わりをもてるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の決めはなく玄関も開放しているので気軽に訪問できるようにしている。面会に来られたときは本人の居室でゆっくりと過ごせるようスタッフは配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内で勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて職員で話し合い実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置し、日中は自由に出入りできるよう施錠はしていない。職員は常に見守りを徹底している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	両ユニット・玄関にセンサーを配備し出入りの際には音で確認し、スタッフ同士で声を掛け合い所在を確認し、夜間帯は3回の巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所・浴室・トイレ等共用する場所での危険物(刃物・洗剤)は鍵のかかる場所に保管している。各居室使用するものは個々の状態において対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有意識を図っている。事故が起きた場合は速やかに事故報告書を作成し職員全体が確認し月に1回リスクマネジメントをして、今後の予防対策を検討すると共に家族にも報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時についてはマニュアルを整備し周知を図っている。又、消防署の協力を得て救急処置やAEDの研修実施を定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については、消防署員監督のもと年1度(消火・非難・通報)訓練を実施している。地域の協力については得られる状況ではないと消防署の助言を頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活援助計画書の説明時に家族にレクチャーし意見をもらい日々の日常生活全般のリスクを軽減するよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフは利用者一人一人の日々の体調の状態を血圧・体温・顔色・排便・食事等で観察し変化が見られたときは当ホームの看護師もしくはかかり付けの病院へ連絡し指示を頂きたいおうしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々のマニュアルには服薬の種類を記載し又、調剤薬局からの内容と効果の記載してあるものをコピーしファイルし又、服薬については個々にスタッフが管理し服用させている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を極力心がけ、食事・体を動かす機会を設けているも、困難な利用者に対しては医療機関と連携する中で、個々の状態に合わせた薬の使用量・頻度で対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の力に応じた歯磨きの声掛けや歯磨きの手伝いをしたりした支援をしている。又、入れ歯を使用している利用者については、極力、夜間にははずすよう促し入れ歯を預かり口腔内の清潔に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量をチェック記録し職員が共有している。又、生活の中で食事や水分量が進むようアイデアを出し合い工夫し支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手に触れるものは次亜塩素酸でふき取り予防している。受診時にはマスクを装着し感染予防に努め、インフルエンザについては職員・入居者共々予防接種を身体に影響のない人は行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきんは使用後毎回漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫も点検掃除し食材の残りは鮮度や状態を確認し早目に使うか冷凍したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植え、玄関には鍵をせず、いつでも出入りできるようにしている。靴箱の上には花や置物を飾り親しみやすい工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファの配置は、利用者が居心地のいいよう配置し、台所も自由に出入りできるよう暮らしの場として配置している。又、廊下壁の掲示板には写真を貼り目の保養を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・ホールにはそれぞれにソファが配置されており入居者それぞれが気のあった人と利用したり、ソファに横になり昼寝をしたりして居る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族には、環境が変わることでの精神的なギャップについて説明し、入居される方の精神的な負担を軽減できるように本人の見慣れた使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。(写真・時計・置物等)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日1回は居室の窓を開け換気に努めている。又、各居室にはロスナイが設置されているので臭いや空気のおよみ状況に応じスタッフは換気を行っている。各居室には温湿度計を設置し温度・湿度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレなどには手すりを設置し歩行不安定な方への配慮をしている。玄関には椅子を置き座りながら自分で靴がはけるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとってできることできないことを見極めたうえで、不安を取り除き安心させられるかを工夫している。状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合、職員で話し合いをし、本人の力を取り戻せる試みもしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑づくり利用者と一緒に散水や収穫などをしている。夏には物干しを設置し天気の良い日は利用者と一緒に洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ○ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ○ ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ○ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ○ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ○ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ○ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ○③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

毎朝9時30分より参加者のみでホールにおいて、曜日の確認・季節の歌・指の運動・ラジオ体操を行った後にホール内の清掃を皆で行っている。効果として、ユニット間同士の交流・見当識の軽減・脳のトレーニング・下肢筋力の向上・排便コントロールの促進・生活への意欲・職員との信頼関係を保つといった効果がみられている。又、ホールからは山や田園風景が観賞でき四季折々の景色が入居者の心を癒している。